



がんセンターだより

第76号

令和7年12月発行



〒362-0806

埼玉県北足立郡伊奈町大字小室780

電話番号：048-722-1111(代表)

FAX：048-722-1129

HP：<https://www.saitama-pho.jp/saitama-cc/>



基本理念「唯惜命」

私達は生命の尊厳と倫理を重んじ、
先進の医療と博愛・奉仕の精神によって、
がんで苦しむことのない世界をめざします。

発行
埼玉県立がんセンター
発行責任者
病院長 影山幸雄



腫瘍内科 新設のご紹介



埼玉県立がんセンター
腫瘍内科 科長兼診療部長

近藤 千絵

門医を取得しました。前職の国立がん研究センター東病院では、泌尿器・乳腺・婦人科腫瘍・肉腫・原発不明がんの薬物療法を行っていました。

がん診療は、手術・放射線・薬物療法の3つの柱で治療が成り立っていますが、最近10年は薬物療法の進歩が著しく、一般的な抗がん剤以外にも、分子標的療法や免疫療法が開発され、通院での治療が一般的になってきました。治療法が多彩になると、直面する副作用も増え、それぞれに異なる対策や支持療法が必要です。日常生活のなかで薬物療法を行うためには、患者さんが孤立しないよう、ご家族や多職種スタッフでサポートし、仕事や社会的な配慮も含めた環境整備も重要になります。

腫瘍内科では、外科系診療科で行う薬物療法の一部を担っているほか、診断がはっきりしないがんや原発不明がんの治療、発生自体がとても珍しい「希少がん」の患者さんも担当しています。近年では遺伝子パネル検査が保険診療で実施可能となり、臓器横断的に治療薬が適応となることも増えてきました。思いがけず薬の副作用が強く治療に困っている患者さんの対応なども院内外からセカンドオピニオンも含め受け付けています。

またこれらの新しく優れた治療をタイムリーにお届けするには、医師だけの努力では

不十分です。薬剤師や看護師、医療社会福祉士、理学療法士、栄養士などすべての医療スタッフが情報や経験、知識を共有し、チーム一丸となって取り組む必要があります。埼玉県立がんセンターには長年の財産ともいえる歴史があり、「唯命を惜しむ」というスローガンのもとに集った熱い志の心優しいスタッフが揃っています。腫瘍内科はその中に新たに仲間入りさせていただき、埼玉県立がんセンターチームの一員として、スタッフのみなさまが力を発揮するサポートをしたいと思います。

埼玉の患者さんに世界最高水準の治療選択肢を 多職種連携で患者さんも医療者も安心な治療環境を



今後とも腫瘍内科をよろしくお願ひいたします



がん専門病院のもう一つの役割として、日本のがん診療のレベルアップに貢献し、世界のがん治療の常識を変えるような研究を行うという使命があります。世界のがん治療を変えるような研究には、患者さんの協力が欠かせません。また患者さんにとっても、自分や大切な人が5年先、10年先の新しい標準治療を受けられる可能性があるのが、「研究に参加する」という選択肢です。埼玉県立がんセンターで受けられる治験や臨床試験の数をもっと増やしていくお手伝いをしたいと考えています。

すべてのがんの患者さんが、笑顔でいきいきと生きられる環境をつくることが私の目標です。お困りのことがあれば、ぜひ腫瘍内科への受診をご検討ください。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



科長兼診療部長就任のご挨拶



このたび、2025年10月より内視鏡科に着任し、科長兼診療部長を拝命いたしました中條恵一郎と申します。2007年に北海道大学を卒業後、関東地方で初期・後期研修を修了したのち、仙台市にある仙台厚生病院にて5年間消化器内科医として研鑽を積みました。その後、全国有数の内視鏡診療を提供している国立がん研究センター東病院消化管内視鏡科に9年半勤務（途中で1年半医薬品医療機器総合機構に出向）し、消化管内視鏡に関する診療・研究に従事して研鑽を重ねてまいりました。



埼玉県立がんセンター
内視鏡科 科長兼診療部長

中條 恵一郎



近年、内視鏡機器の解像度の飛躍的向上や画像強調内視鏡の登場、内視鏡治療法の開発により、早期段階での早期消化管腫瘍の検出及び負担の少ない内視鏡治療での根治が可能となっています。当科では、消化管内視鏡診断・治療に精通した内視鏡医が複数名在籍しており、最新鋭の内視鏡システムを用いて、患者様に質の高い医療を提供できる体制が整っています。さらに2025年より光線力学療法を導入し、再発食道癌に対する低侵襲なサルベージ内視鏡治療も可能となりました。2025年10月からは常勤医が1名増員され、5名体制となったことで、より充実した診療体制となっております。

設立50周年を迎える伝統ある埼玉県立がんセンターの一員として、その責任を胸に、地域医療連携を推進するとともに、埼玉地域の患者様に最良の医療を届けることで地域医療に貢献してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



2025年10月1日付で、歯科口腔外科科長兼診療部長に就任いたしました田中茂男（たなかしげお）と申します。歴史ある埼玉県立がんセンターの責任ある立場に立つことは非常な喜びであるとともに、その職責の重さに身の引き締まる思いです。



埼玉県立がんセンター
歯科口腔外科 科長兼診療部長

田中 茂男



私は、口腔がんを含む口腔顎顔面領域の腫瘍性病変、外傷、顎変形症および顎関節疾患における外科治療を主に担っていました。その中でも、口腔がんおよび顎顔面外傷の治療では脳神経外科とのチーム医療を行ってきており、口腔がん治療での超選択的動注化学療法（橈骨動脈アプローチによるセルジンガー法）や、頭蓋内損傷を伴う中顎面外傷の手術では、良好な治療成績を治めることができました。特に、超選択的動注化学療法では、脳外科医だけではなく、内科医、薬剤師、看護師や放射線技師の献身的な協力により遂行できました。この実績は、チーム医療の重要性を実感する貴重な経験であり、私の財産の一つとなっています。また、口腔がん治療に限らず、顎顔面外傷での骨折手術や顎変形症に対する上下顎形成手術の経験は、口腔がん手術の手技向上にも役立っています。

これら今まで培った経験をもとに、埼玉県立がんセンターの理念を重んじつつ、微力ではございますがこれから地域医療に貢献できるよう尽力したいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。



「遺伝性がん当事者からの手紙」写真パネル展 “埼玉県リレー 2025” 開催!

● 目的

本企画は、当センター遺伝科とNPO法人クラヴィスアルクス（HBOC当事者団体）が主催し、遺伝性がん当事者の声を広く社会に伝えることにより、遺伝・ゲノム・がんの社会啓発、遺伝医療への貢献、当事者の立ち直り支援、潜在的当事者へのエールを目的としています。2018年から全国の医療施設、学会会場などで開催されてきましたが、埼玉エリアでは初の開催です。地域で連携して活動していくことを目指し、県内のがん診療施設をリレー形式で巡回しています。

● 開催概要

2025年10月1日より当センターで展示を開始・出発し、各地点21日間の展示を行い、埼玉県内10地点を巡回リレーします。来院される患者さん・ご家族および病院職員を対象とし、HBOC（遺伝性乳がん卵巣がん症候群）やCowden症候群当事者の声を写真パネル（26枚）にして展示しています。



当センターのパネル展示期間に合わせて、第2回 HBOC 当事者会も開催しました。遺伝性腫瘍症候群について全国的に当事者会活動を行っているクラヴィスアルクス代表の太宰牧子氏（写真）、当センター山本幸恵看護師によるミニレクチャーを行い、33名の当事者が参加し交流を深めました。

パネル展巡回の最終ゴール地点は埼玉県庁を予定しております。また、がんと遺伝のさいたま市民公開講座も開催予定です。お近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。



オープンホスピタル 2025 秋を開催しました!

埼玉県立がんセンター開設50周年を記念し、市民向けイベント「オープンホスピタル2025秋」を開催しました。当日は伊奈町内外から390名の皆様にご来場いただき、大盛況のうちに終了することができました。ご参加の皆様に心より御礼申し上げるとともに、ご協力いただいたスタッフの皆様、伊奈学園総合高等学校の皆さんに深く感謝いたします。

今回は「肺がん」と「遺伝性がん」をテーマに、胸部外科の中島先生、遺伝科の吉田先生、遺伝カウンセラー野竹さんによる市民向けミニ講演を実施しました。また、「よろず相談」「乳がんを知ろう」「緩和ケア」「ミニ健康診断」「おくすりコーナー」「内視鏡手術体験」「抜歯体験」「手足の健康チェック」の8つの体験ブース、伊奈学園総合高等学校の皆さんによるミニコンサート、いずれも大変好評でした。

多くの職種のスタッフが笑顔で支え、来場者の皆様から元気をいただく場となりました。埼玉県立がんセンターは「地域とともに笑顔あふれる未来へ」歩みを進めてまいります。今後ともご理解とご支援をお願い申し上げます。



【50周年記念オープンホスピタルWGメンバー】(敬称略)

岡(副病院長)、福山(副病院長兼看護部長)、野口(HCU師長)、小柳(リハビリテーション科科長)、中村(9東病棟師長)、炭野(口腔外科)、杉山(薬剤部)、服部(放射線技術部)、大内(検査技術部)、鈴持(患者サポートセンター)、西澤・小口・河村(事務局)

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2025 さいたまに参加しました

リレー・フォー・ライフ(RFL)とは、Save Livesを使命とし、がんの告知を乗り越え、生きていることを祝福し(祝う:Celebrate)旅立った愛する人たちをしのぶ(しのぶ:Remember)がんで苦しむ人や悲しむ人をなくす社会を作る(立ち向かう:Fight Back)ことを目指したチャリティ活動です。RFLJさいたまは、「迷わせない」「困らせない」「ひとりにさせない」を掲げ活動をしており、当センターはその趣旨に賛同し、2013年よりRFLJさいたまに参加しています。

今年度は認定看護師による「よろず相談」を実施し、相談に来ていただいた方から『受診している病院には相談できなかった、話が聞けて良かった』とのお言葉をいただきました。また、影山病院長、牛島医師、横田元病院長による講演会には多くの方に参加いただきました。

私たちは病院内で患者さんやご家族と接していますが、病院外でサバイバーやケアギバー、地域の方々と繋がることができるこのような機会を今後も大切にしていきたいと思います。

